

# 1. 評価結果概要表

【認知症対応型共同生活介護用】

作成日 平成 21年 3月16日

## 【評価実施概要】

事業所番号	0770302008		
法人名	株式会社 エコ		
事業所名	グループホーム みやま		
所在地	〒963-8041 福島県郡山市富田町字上ノ台60-13 (電話) 024-961-9660		
評価機関名	NPO法人福島県シルバーサービス振興会		
所在地	〒960-8043 福島県福島市中町4-20 みんなゆうビル302号室		
訪問調査日	平成21年2月24日	評価確定日	平成21年3月25日

【情報提供票より】(平成21年1月1日事業所記入)

### (1) 組織概要

開設年月日	平成16年5月1日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18人
職員数	18人	常勤	9人, 非常勤 9人, 常勤換算 14人

### (2) 建物概要

建物構造	木造 造り		
	2階建ての 1～2階部分		

### (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	30,000円	その他の経費(月額)	12,000円(4月～10月) 15,000円(11月～3月)	
敷金	有( )円 ● 無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	● 有(19,950円) 無	有りの場合 償却の有無	無	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり		1,200円	

### (4) 利用者の概要

利用者人数	18名	男性	8名	女性	10名
要介護1	5名	要介護2	8名		
要介護3	2名	要介護4	3名		
要介護5	0名	要支援2	0名		
年齢	平均 80.7歳	最低	57歳	最高	100歳

### (5) 協力医療機関

協力医療機関名	やぎぬまきクリニック しろくま歯科
---------	-------------------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

開設後間もなく5年になるグループホームであり、法人の代表者が管理者でもある。利用者の人格を損なうことなく「よく歩き、笑い、おしゃべりし、褒めあう」ことをモットーに、地域で安心して暮らせるよう利用者と職員が一体となって、自宅の延長のような自由な雰囲気の中で和やかに過している。事業所は地域連携の重要性を理解し、運営推進会議の積極的活用や町内会総会への出席、地域イベントへの参加、近隣の小中学校や養護学校との双方向による交流などに努めている。管理者が中心となり、職員自ら資質向上を図るため、各自が自主的に勉強テーマを見つけ、掘り下げた内容を月例勉強会で発表し、切磋琢磨することによって全員の資質向上に繋げていることは評価できる。

## 【重点項目への取組状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)
	前回評価で取り組みを期待したいとされた災害時対応の備蓄については、食料品、水等が整備されている。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	自己評価には全員でかかわっており、管理者が総括的にまとめ取り組みの事実に対する評価も適切であり、絶対評価としての評価水準は高い。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5)
	運営推進会議は定期的開催されており、積極的な双方向による話し合いがなされている。会議を通して町内会との防災等に対する連携・協力の必要性が理解され、支援体制が整っている。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	定期的に利用者の健康状態や事業所での生活状況を担当職員から自筆の手紙を添えて報告している。面会時にも個別的な相談や要望を聞くなど信頼関係を築いている。金銭管理も適正に記帳、管理され家族に報告してある。意見箱も整備している。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
重点項目④	町内会より地域の行事計画等を把握し廃品回収やクリーン作戦等にも積極的に参加している。近隣との付き合いについても気軽に挨拶を交わしたり事業所の行事等を伝え参加を促すなど、地域住民との交流を深めることに努めている。

## 2. 評価結果 (詳細)

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
<b>1. 理念と共有</b>					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	地域密着型の概念を十分に理解し、地域の中で安心して暮らし続けられるホームとして理念を作っているが、地域との交流についての表現を加えることによってより一層充実した内容になると思われる。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	日常の業務引継ぎの折やスタッフ会議の中でも常に唱和することを心がけていて、職員全体で理念を共有している。		
<b>2. 地域との支えあい</b>					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	近隣の幼稚園、小学校、養護学校などとの交流を積極的に行っており、運営推進会議委員からの情報を得て利用者が地区の絵画教室や料理教室へ通っている。		地域との交流は十分になされているが、道路側から事業所の表示が見えないため、訪問者の便宜を図るためにも、壁面もしくは入り口のフェンスに看板をつけてはどうか。
<b>3. 理念を実践するための制度の理解と活用</b>					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価は職員全体で行い、管理者が取りまとめ総括している。外部評価の結果についても学習会のテーマとして取り上げ、自己研鑽に励んでいる。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	定期的開催されていて、構成員のバランスも取れている。事業所主導の会議運営から委員による自主的な運営を検討しており、一層独自性のある会議が期待できる。		
6	9				
<b>4. 理念を実践するための体制</b>					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	毎月の利用料請求の際に、金銭出納帳のコピーやレシートに担当職員の自筆の手紙を添えて、利用者の健康状態、医院への受診内容などを伝えている。面会時には個別に対応して率直な意見や要望を聞きサービス向上に反映させている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議の議事録には家族の建設的な意見が記載されている。意見や要望については現場で解決しがたいものは本社へあげて速やかな解決の方策を取っている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	開設以来管理者の変更はない。また職員の異動の大部分が1ユニット間のものであり、日常的にも職員がユニット間を頻繁に行き来して利用者に馴染んでいる。		職員の異動については、家族も大きな関心を持っているので、速やかに報告するように心がけてほしい。


外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>5. 人材の育成と支援</b>					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	事業所独自の研修計画があり職員研修の基本をOJT(働きながらトレーニングすること)に置いている。法人内および外部機関の研修には経験年数や技能に応じ参加させ、研修結果を発表し、情報の共有に務めている。管理者を中心に職員が自主的に勉強のテーマを決め、その結果を発表し、資質向上に努めていることは評価できる。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	事故再発防止のため法人内に設置してあるブロック合同事故対策安全委員会で他法人との情報交換や交流が行われており、他法人のグループホーム間の訪問やボランティアとしての職員の受け入れなどを行っている。		
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
<b>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応(小規模多機能居宅介護事業所のみ記入)</b>					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している(小規模多機能居宅介護)	/		
<b>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	介護度が比較的軽い利用者が多く、職員と一緒に台所仕事や買い物、外出をしたり、自由に、穏やかな日常を送っている。双方の会話の中からも信頼関係が窺われる。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
<b>1. 一人ひとりの把握</b>					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者の日常生活行動から思いや意向を感じ取り、また、家族等からの情報を取り入れながら、意向の把握に努めている。一人ひとりに時間を十分かけアセスメントを繰り返し把握に努めている。		
<b>2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</b>					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	利用者や家族の意向を取り入れた計画となっており、同意を得て実施している。利用者や家族の希望を踏まえ、個別・具体的な計画作成に努めている。		援助内容の優先度の検討が必要であると思われる。
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	期間内に見直しを行っており、状態変化時は、主治医や家族等と話し合い、見直しがなされている。しかし、介護計画に対する実績の記録が十分でないため、モニタリングの経過と見直しの根拠が明確でない。	○	ケアプランに基づくサービスが提供されているかどうか確認できるような実績記録は重要である。実績記録の結果から適切なモニタリングを行い、精度の高い現状に即した介護計画に反映されることが望ましい。
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援(小規模多機能居宅介護事業所のみ記入)</b>					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている(小規模多機能居宅介護)	/		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	近くのかかりつけ医との関係を重視し、医療連携は十分図られている。家族の協力を得ながら職員も勤務ローテーションを考慮し適切に支援をしている。		事業所開設以来契約している協力医療機関は、利用者の受診歴が無いため協力関係が希薄である。今後、医療連携加算対象事業所として実際に受診や往診に応じてくれる医療機関との連携を検討して欲しい。
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	医療連携体制加算事業所であり、重度化した場合の看取り指針を作成し、利用者、家族等の事前確認書の同意を得ている。看護師による健康状態の把握もなされており、主治医との連携により急変時の体制も整っている。		
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>					
<b>(1)一人ひとりの尊重</b>					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	職員は採用時には守秘義務に関する誓約書を提出し個人情報保護に努めている。職員相互間で利用者に対する言動を客観的にチェックするチェック表により、プライバシーや誇り等を損ねないよう徹底している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者はそれぞれのペースで自由に過ごしている。猫と一緒に生活している方や決められた場所で喫煙している方もいる。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b>					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の好みや調理方法を工夫し、職員も利用者と一緒に食事を楽しんでいる。調理や後片付けも一緒に行っている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	何時でも入浴可能となっており、好きな方は数回入浴している。また、利用者の体調を把握しバイタル測定をしながら、入浴支援をしている。		
<b>(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援(認知症対応型共同生活介護事業所のみ記入)</b>					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている(認知症対応型共同生活介護)	利用者の生活歴や希望、得意なことを把握し場作りをしながら支援している。調理の手伝いや下膳、後片付けなど職員と一緒に楽しんで行っている。また必ず職員は感謝の言葉を伝えている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している(認知症対応型共同生活介護)	日常的に外出は多く、グループで外食する機会も設けている。散歩や買い物なども利用者の希望に合わせて支援している。		
<b>(4)安心と安全を支える支援</b>					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	職員のさり気ない見守りにより日中は施錠されていない。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防計画により、定期的に災害時を想定し、夜間想定も含めて避難訓練を実施している。町内会の協力体制もできているので次回の訓練の際に協力を得ることとしている。備蓄も整備されている。		利用者個室の壁側の電源差込コンセントは、ベッドに密着しておりコードが破損する可能性が高いため、検討が必要だと思われる。なお手元でオン・オフが可能なテーブルタップの活用も検討してはどうか。非常階段の手すりも両側の設置を検討して欲しい。
<b>(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援</b>					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	生活チェック表により一人ひとりの食事量や水分量を把握し、日々のバイタルチェックを行い、それらの情報を職員間で共有し状態に応じ支援している。		
<b>2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり</b>					
<b>(1) 居心地のよい環境づくり</b>					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	道路沿いの建物であるが、外部からの騒音が入ることは無く、明るい静かな環境が保たれている。利用者はそれぞれの居場所があって穏やかに過ごしている。季節を感じてもらうことを大事にしていて、冬至のゆず湯や5月の菖蒲湯などを行っている。また、おやつにも工夫して春の桜餅、柏餅などを手作りして楽しんでいる。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者それぞれの好みや生活歴を大事にした居室作りがされている。		

※  は、重点項目。



3 評価結果に対する事業所の意見

事業所名 グループホームみやま

記入担当者名 濱津 美子

評価結果に対する事業所の意見

特になし

評価結果に対する「事業所の意見」の記入について

意見については、項目No.を記入してから内容を記入してください。